

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

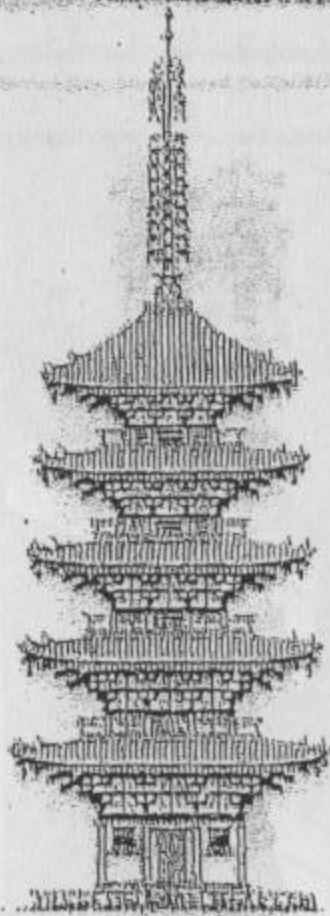
皆さん、こんにちは。朝晩は肌寒くなってきました。くれぐれもご自愛ください。さて、今年のかわら版は覚王山周辺の名刹をご紹介します。今月は曹洞宗の黄梅山正法寺です。

★尼僧学林のある正法寺

日泰寺の東側、城山八幡宮の北側に位置する正法寺は、**尼僧学林(尼僧堂)**があることで知られています。

尼僧学林は、**明治三十六年**、尼僧教育の指導者、**水野常倫師**の提唱で春日井市の**香林寺(薬師堂)**に誕生。厳しい修行が宗門に認められ、**明治二十八年**に**関西尼学林**と称して正式な尼僧教育の場となりました。

大正元年、尼学林に感銘した**梅本金三郎氏**の篤志で名古屋市北区に移転。**昭和二十年**、名古屋大空襲で焼失し、**福蔵寺(小牧市)**、**乾徳寺(中区)**に寄留。**昭和二十二年**、学監の**堀徳応師**が住職を務めていた正法寺に移転。その後、**高等尼学林**、**愛知専門尼僧堂**、



特別尼僧堂と名称を継いで今日に至り、現在の堂長は**青山俊薫師**。一方、正法寺は、**渋沢栄一翁**とともに活躍した財界人**佐治春蔵氏(佐治タイル創始者)**の娘**すず子さん**が、父の死を悼み、**昭和十二年**に自ら得度して建立したお寺だそうです。



正法寺の本堂

★「宗旨の祖」と「宗門の祖」

曹洞宗は坐禅を通じた悟りを目指し、ひたすら坐禅に打ち込むことを**只管打坐(しかんたざ)**と言います。

開祖は**道元**と、道元から数えて四代目の弟子**瑩山(けいざん)**のふたり。道元は中国で曹洞宗を学んで帰国。日本にはまだ曹洞宗という名前はありませんでした。

京の都の喧騒から逃れ人里離れた福井に**永平寺**を創立(一二四四年)。静かな環境で思索と坐禅によって得た境地を**正法眼蔵**という書に表しました。正法寺の「正法」はここから来ているようです。

教団としての曹洞宗を整備したのは瑩山。道元の弟子、**懐特**(えじょう)、**義介**(ぎかい)の下で修行を積み、能登に**総持寺(そうじじ)**を開山(一三三一年)。総持寺はもともと**真言宗**のお寺でしたが、瑩山が**禅院**として再興。**弘法大師**ともご縁があるようです。総持寺は明治時代に焼失、現在の横浜市に移転しました。

こうした経緯から、曹洞宗では道元を「**宗旨(宗派の教義)の祖**」「**父**」**高祖さま**、瑩山を「**宗門(教団)の祖**」「**母**」**太祖さま**と呼び、永平寺と総持寺がそれぞれの本山となっています。



禅宗の雲水

★修行僧の雲水(うんすい)さん

禅僧になるための修行中の僧を**雲水**と言います。行く「**雲**」のごとく、流れる「**水**」のごとく正しい師と教えを求めるところに由来します。

お遍路さんの装いに決まりがあるように、**雲水さん**の服装も独特です。丸いお椀を逆さまにしたような**網代笠(あじろがさ)**、腕まくりをしたような**黒い七条袷(しちじょうけさ)**、修行生活に必要な持ち物を入れる**袷袋(あつふく)**、**文庫(ぶんく)**、**行李(こうり)**と**後付け(あとづけ)**。後付けは風呂包みのように背中に結わえます。

お遍路さんの背中に「**同行二人**」と書いてあるように、雲水さんの首にかかる**頭陀袋(ずだぶくろ)**には「**行雲流水**」と記されています。

正法寺尼僧堂では**外国人の雲水さん**もたくさん修行しているそうです。弘法さんの縁日には**托鉢**で日泰寺参道を往来していますので、是非声をかけてあげてください。

★次回は西蓮寺

来月は日泰寺舍利殿の南東にある浄土宗の**西蓮寺(さいれんじ)**。池の中に**姫池地蔵**が鎮座しています。乞う、ご期待。